

平成 29 年度第 4 回学校運営協議会議事録

神奈川県立市ケ尾高等学校

日 時：平成 30 年 1 月 13 日（土）14 時～16 時

場 所：神奈川県立市ケ尾高等学校 中央棟 3 階 第 3 会議室

出席者（敬称略）

【委員】

倉岡 正高（地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター研究所研究員）

中村 浩樹（本校 PTA 会長）

鈴木 秀幸（地域住民）

福田 晴好（翔凜高等学校 特別講師）

内川 隆（本校 同窓会長）

○仁井田尊史（横浜市資源循環局青葉事務所 所長）

○坂村 暁（横浜市立市ケ尾中学校 校長）

増淵 広美（本校 校長）

（欠席者）

○田口 亮（東京都市大学知識工学部 教授）

田中 多恵（NPO 法人 ETIC. 横浜ランチマネージャー）

【事務局】

奥津 賢一（本校 副校長）

佐藤 和彦（同 教頭）

○川村 裕幸（同 事務長）

黒柳 幸子（同 地域連携・広報グループリーダー）

近藤 駿矢（同 学校運営協議会委員担当）

熊谷ますみ（同 学校運営協議会委員担当）

議 事（司会 副校長）

出席者の確認と議事成立の人数確認。傍聴者はなし。資料確認。

1 開会の言葉（副校長）

本日の協議会では、これまで実施した学校行事および保護者や地域との連携事業について報告させていただくとともに、これからの地域貢献活動の在り方について意見をいただきたい。

2 会長挨拶（倉岡会長）

様々な事業が予定される時期の中、出席いただき感謝申し上げます。今回も報告事項・協議事項について様々な意見をいただきたい。

3 校長挨拶

本日はセンター試験の 1 日目で、本校からも、すでに推薦で進路が決定している生徒も合わせ、360 名ほどが受験している。

新年度より、在校生に新たに「市高生徒手帳」を携行させる。主な目的は、時間管理、日々の学習時間の可視化、活動の記録。日記でなく、自己の活動を振り返る日誌の役割も担っている。自分のスケジュールや様々な記録を書き込むことにより、自己管理の徹底を目指す。

地域の活動では緑法人会主催のチャリティ・クリスマスコンサートにダンス部、ジャグリング部、吹奏楽部が出演、それをご覧いただいた一般の方から心あたたまる感謝の手紙を頂戴した。また、市ケ尾ユースプロジェクトの発表が愛媛県で開催されたが、本日はその時に参加した生徒にプレゼンテーション発表をしてもらう予定。

中央棟2階のトイレの改修工事が終了したので、帰りにぜひ立ち寄っていただきたい。また、現在、自習室に設置してある机を、今後、より機能的なものに変えていこうと考えている。この辺りについても意見をいただきたい。

4 報告事項(○:委員 :学校)

(1) 学校評価アンケート

中間評価については、前回の第3回学校運営協議会で報告した。年度末の評価となる今回は、生徒、保護者にそれぞれアンケートを実施(各学年無作為3クラス抽出)し、集計結果や意見をまとめていく予定である。2月の下旬に集計結果が出るので、その結果も参考としながら、評価部会で評価をしていく。

評価部会で資料を見たときに、集計方法や分類の仕方については、理解しやすいように工夫してほしい。自由記述欄に無作為に羅列されるより、まとめてわかりやすくしてほしい。

「生徒に身につけさせたい力」を分かりやすく示し、キーワードを保護者が見やすいように、アンケートを改善すべきだ。

意見をふまえて、資料の体裁を工夫していきたい。

(2) 地域や保護者等との連携・協働事業について

地域や保護者、PTAの方々との連携し、11月以降も様々な活動を行うことができた。最近では、地区センター祭りの運営手伝い、チャリティ・クリスマスコンサートへの出演などがある。1月5日には、青葉区役所の賀詞交歓会に華道部が参加し、生け花を披露した。

【その時の作品をスライドで提示】

2月にはソフトボール部が市ケ尾小学校での防災訓練に参加する予定であり、活躍の場がどんどん増えている。活躍の舞台があるということは良いことなので、全校生徒の励みにしていきたい。

(3) 市ケ尾ユースプロジェクトの活動状況について

最初は何をするのかわからず戸惑う場面もあったが、今は目的別に5つのグループに分かれ、それぞれの活動も軌道に乗ってきた。今月も青葉区のPR動画を作成している。今後の活動としては、スタンプラリーや高齢者向けスマホ講演会が予定されている。また、地元野菜を使った商品開発については、新しい取組みを検討中である。先日も打合せがあり、生徒と地域の大人による話し合いが活発に行われた。

【生徒による第10回地域教育実践交流集会(愛媛県)での発表】

「さんどいっちがお(地元野菜を使ったサンドイッチ)」は、商品化されるのか。

いまのところ商品化の予定はないが、イベント等で販売されるだろう。地元の商店街の方が中心になって活動されている。タウンニュースにも載っている。

地域教育実践交流集会は、毎年どこかの都道府県で開催されているのか。
国の事業で毎年愛媛県にて開催されている。

PR動画は現在、見ることはできるのか。

現在は編集中のため、見ることはできない。完成後、どのような形で公開するのが効果的であるのか、意見があればいただきたい。

今後、市ケ尾ユースプロジェクトの人数が増えることはあるのか。

増えるかは分からないが、我々としては、生徒会以外の生徒にも積極的に参加してほしいと考えている。

中学生にとって、高校生の姿を見ることは刺激になるようである。実際に市ケ尾高校に入り、ユースプロジェクトを引き継いでいきたいと考えている中学生もいる。この活動を通し、将来の展望をもって活動に取り組んでいる生徒が多いようであり、是非とも今後も続けていきたい。

今後はこの活動を通し、将来何をしたいのか、何を学びたいのかまで考えていけるようにしたい。

今後の予定で2月20日(火)市ケ尾ユースプロジェクト成果発表会(青葉区役所)がある。また、3月10日(土)セカンドキャリアフォーラムクロージングイベントで市ケ尾ユースプロジェクトの活動報告がある。

(4) その他

協議事項

1 新たな生徒の学びの場・活躍の場の創出について

(1) 学校組織内にサークル活動を位置づけることについて

来年度も市ケ尾ユースプロジェクトが継続される見込みだが、学校組織内にサークル活動として位置付けることはできないか。部活動を途中退部した生徒の次の活躍の場にもなるような、生徒会活動とは性格を異にするチャレンジクラブ、アドバンスクラブ(仮称)といった名称のサークル活動にして運営したい。

一度部活動を離れてしまった生徒がこういった活動に自ら参加することは難しいのではないかと、生徒たちに伝わりやすいように資料を作成し、宣伝の仕方を工夫してほしい。また、「部活動を辞めてしまった」という意味合いがあるのであれば、その生徒たちが入りやすいようにあまり大げさにはせず、工夫してほしい。

(2) 「国際理解勉強会」の提案について(福田委員)

人口減少が日本経済のアキレス腱になっていくこれからの社会には、「グローバル人材の育成」が

必要不可欠である。そこで勉強会を設けることによって、国際人になるための基本的な素養を入学直後の早い段階で身につけさせ、自覚をもって学校生活をしてほしいと考えている。対象生徒は高校1年生希望者20名程度で、男女同じくらい的人数が理想である。期間は1年とし、月に2回位行う。テーマによっては外部からもワンポイント講師を招聘する。この授業の効果測定を勤務校で実施しているが、授業前後で例えば「将来、国際的な場で活躍したいか」などの指標が大幅にアップしている。

学校へのお願いは運営全般の責任者と実務担当者2名の配置、パワーポイントが使用できる教室の提供などである。勉強会の実施に際して、学校行事を最優先し、かつ授業の負担にならないようにする。教職員、保護者の参観も歓迎する。活動のあり方については、サークル活動の一環としてなど考えられるが、学校と相談しながら進めていきたい。

本校の職員が主たる講師となって、外部の方に参加してもらおうという形であれば県の事業（公開講座）として行うことは可能だが、外部講師で生徒対象ということであれば、当該事業に位置付けることはできない。

現在、放課後に行っているキャリアアップ講演会と同じような位置づけとして行うことは可能であるかもしれない。引き続き学校としても検討させていただく。

2 教職員等の任用について

【教職員の任用等について説明】

サポートティーチャーについて、進路支援を行うサポートティーチャーは次年度も必要。強く要望する。

その他

2月下旬に評価部会、3月中旬（卒業式の次の週あたり）に学校運営協議会、地域協働部会を予定している。

以上